

# 子どもが話したくなる聞き方

わが子がつらい思いをしている時、親には真っ先に話してほしいものです。嬉しいこともつらいことも、どんなことでも話してくれる子に育てるには、ちょっとしたコツが必要です。今日は、『子どもが話したくなる聞き方』について練習してみましょう。

## 1. 子どもが困った顔をして突然こんなことを言ってきました。こんな時、どう話を聞く？

「夏休みの宿題は全部終わった」と言っていたのに、登校日の前日になって突然、「明日の用意をしていたら、し忘れていた宿題があったので、明日学校へ行きたくない」と言ってきました。こんな時、あなたはどのようにして子どもの話を聞きますか？ 2つのタイプをやってみましょう。（親役と子ども役を交替して、両方のタイプとも、子どもの気持ちを体験してみましょう。）

### 〔タイプ1〕の聞き方

今後同じ失敗を繰り返さないように、何度も確認することが大切なことを厳しく諭す。



### 〔タイプ2〕の聞き方

うなずいたり相づちを打ったりしながら子どもの話をしっかり聞いた後、今からできることを一緒に考える。（聞き手から一緒に考えることを提案し、何か助けられることはないか尋ねる。）



## 2. 「子育てで最近ちょっと気になること」について、お互いに話を聞き合ひましょう。

### 【聞き方のポイント】

〈話の前半〉 ☆しっかり聴く。

- うなずいたり相づちを打ったりして、しっかり相手の話を聞く。
- 聞き手は、なるべく話さない。（必要な質問は最小限度に）

〈話の後半〉 ☆一緒に考える。

- これからどうしたらいいか、一緒に考える。（聞き手から解決策を一緒に考えようと提案）
- 「〇〇は、どうしたいと思っているの？」等、話し手の考えを先に聞く。
- 「もし私が〇〇だったら、～するかも」の言い方で、自分の考えを押し付けずに話す。